



■ VISTA 8は52フェーダー仕様



■ M3とまったく同じ仕様のM4スタジオ



■ 余計なものがない快適な操作環境



■ M4アナブース

なぜVISTAか？

台場本社屋V2スタジオへVISTA 6を導入したのは2004年のことでした。フジテレビとして汎用スタジオに本格的なフルデジタル卓を導入するのは台場移転時以来の7年ぶりであり、当初は生放送番組のオペレートなどに不安の声が聞かれたのも事実でした。しかし実際の運用が始まると、細かいバグ等が皆無であったわけではないものの、それを大きく上回るデジタル卓としてのメリットが享受できることが分かりました。また不具合発生時のサポート体制がきちんと整っていることも、図らずも判明したのです。

また湾岸スタジオの場合、本社スタジオと異なり、不特定多数の外部からの音声スタッフがオペレートする可能性があります。デジタル卓

に触れるのは初めてという人もいるかもしれませんが、よって通常必要となる操作が分かりやすいことが必須条件となりました。それに加えて、本社V2スタジオのVISTA 6には慣れてきたスタッフも多くなり、ほとんど操作方法が変わらないVISTA 8は有力な候補となりました。

比べてみると

他のデジタル卓にも触れてみて初めて分かったことですが、VISTAの操作性は素晴らしいものがあります。特にフェーダーの並びを決定するSTRIP SETUP画面は、視認性、操作性ともに簡潔によくできています。基本的にドラッグ&ペーストのみ。「デジタルなんだから、これが当然」と思っていました。他のデジタル卓で同

じことをやろうとすると意外と苦労しました。Dynamics, EQ, AUX等、頻繁に使うパラメータの変更はほぼ2アクション目で可能であり、本当に直感的です。つまみが全て卓面に出ているアナログ卓にはかなわないのですが、それを比較対象にしてしまうこと自体がVISTAのすごさでしょうか？私が初めて慣れ親しんだデジタル卓がVISTAだったこともあります。他のデジタル卓を使用する際、操作方法に行き詰ると、「VISTAだったらあんなに簡単にできるのになあ」と思うことが多いのは認めざるを得ません。もちろん音質の素晴らしさについては、今さらあえて申し上げる必要はないでしょう。今後も、バージョンアップ等でより完成度を高めたいと思っています。